

実務家インタビュー

コンサルト社会保険労務士事務所 所長

社会保険労務士 MBA(経営学修士)

多田 智子さん

【Profile】

多田 智子(ただ ともこ)

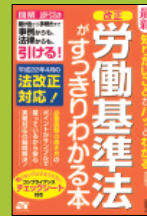
1972年5月16日生まれ。宮城県仙台市出身。中外製薬株式会社に勤務。2001年、社会保険労務士試験合格。社会保険労務士事務所勤務を経て、2002年8月、独立開業。2006年3月、法政大学大学院イノベーションマネジメント専攻にてMBA取得。創業以来、上場・中堅企業の就業規則・退職金・労務相談に関するコンサルティング活動を中心に積極的に活動。近年では、事業再編、M&AやIPOを得意とする。

独立開業

Tomoko Tada

上場・中堅企業以上を対象に、
人材戦略を担う
労務コンサルティング事務所です。

▼主な著書



「改正 労働基準法がすっきりわかる本」(ノーテック社)



「非正社員雇用の重要ポイントがよくわかる本」(中経出版)

社労士の世界

自ら仕組みを作り、自ら時間調整できる仕事

「社会に何かしらの貢献を与えたい」と結婚後、改めて感じていました。「しっかりと育児もこなしながら仕事(社会貢献)をするために」。私が資格を取得した出発点はその2つにあります。自ら考え、自ら仕組みを作り、自ら時間の調整ができる仕事はないかと考えているうちに、独立開業に行き着きました。中でも、企業は「人」から成り立っています。これからは、この重要な経営資源である雇用問題に関わる仕事が重要視される時代になると確信し、社労士を目指すことに決めました。

朝3時に起床し7時までの4時間と子どもが幼稚園に行っている間。そこで勉強時間を確保し、通信教育で学びました。初めて触れる内容、しかもこれから必要となる知識を吸収できるのだと思うと大変興味深く楽しい受験勉強でした。

合格後、「時間の制約がある中で最大限に御社に貢献します。」という私の意志を、唯一尊重してくださった先生の事務所勤務し、厚生労働省関連助成金を中心に数多くの経験と様々なノウハウを構築・蓄積しました。事務所から頂ける仕事はすべて付加価値をつけて対応することを常に実践していました。1年後、登録と同時に独立しました。

「人材戦略を担う」相談顧問をスタート

開業するにあたり、私は「どうしたらお客様の信頼を得ることができるか」を優先して考えました。「人に関するビジネスを展開する人材紹介会社とサービスを共有し、付加価値を高めるコンサルティングをすればいいのではないか」。そこに着地点を見出した私は、人材紹介会社の方と一緒に、助成金、就業規則等の相談に乗り、お客様の求めている情報をいかにわかりやすく提供できるかに軸足を置いてスタートしました。

このビジネスモデルが軌道に乗り、上場・中堅企業中心に就業規則・退職金・労務相談に関するコンサルティング業務が広がっていききました。現在では、企業の労務相談、退職金問題、就業規則に関する数少ない総合コンサルティングファームとして事業規模を拡大しています。また、大手金融機関等の主催する就業規則セミナー、退職金セミナー講演依頼も数多く、独自のプレゼンテーションツール等も含

めて高い評価を得るようになりました。

コンサルトのビジネスポリシーは「人材を人財と考えるお客様に質の高いサービス、そしてお客様との信頼関係を構築し継続的に企業の発展に寄与する」であり、基本コンセプトは「人材戦略を担う」です。ゆえに、顧問契約形態のベースは相談顧問となります。就業規則作成はもっとも多く頂く案件です。雛型の規則を使うのではなく企業の人材戦略・企業風土・企業規模を踏まえて役員と幹部候補者を交えて論議を重ねて作り上げていきます。その他の案件として、事業再編として企業分割や、希望退職制度構築など今の時代に必要な労務コンサルを受けています。その上で、お客様の会社の向かう方向、人材戦略を理解し、顧問先に社会保険手続きアウトソーシングも必要であれば人事総務部門をフルサポートしていく形です。

最近多いのは残業未払い問題や偽装請負や派遣に絡むシビアなご相談です。残業未払いでは賃金制度を労務コンプライアンスの視点から構築し、偽装請負や派遣の問題では会社全体の業務フローから見直しています。

密度の高い時間で精度の高い仕事

私のビジネス戦略は誰に習ったものでもなく、独自に考えた手法です。「他の人が10年で達成することを3年で達成する。」開業当時はこの言葉を何度も社内でも言い続けていました。付加価値の高いコンサルトの業務は、密度が濃い就労時間で精度の高い仕事をする環境から生まれたものなのでしょう。丁寧に業務をこなすことで手間がかかっているように考えるかもしれませんが、徹底してミスをなくすことでやり直しリスクを回避し、結果としての業務効率化を徹底しています。今後も更にサービスの質を高めていきたいと考えています。また、私個人は経営者として時間が限られていますので、自分がやるべき仕事を徹底して選択しています。

私は独立開業を選び、外部の人間として企業にコンサルティングする道を選びましたが、企業内であっても独立開業であっても、社労士が大変必要とされている専門家であることは間違いありません。ただし見解を求められるときにベースがなければ解答できませんから、資格を取った上で自分の考えを加え、社内での戦略立案や外部からの指導に活かしていただきたいですね。モノを考える基礎力という視点で考えると、社会人になる前の学生の皆さんにも是非取得していただきたい資格です。